「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。

2023 年 11 月 15 日発行　　特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

第１回『ウクライナの子ども達の絵画展』開催

10 月 21 日(土)22 日(日)の両日、名古屋 YWCA を会場にして絵画展が開かれました。ウクライナの子ども達から届いた絵は 112 枚、戦時下にある子ども達が1か月あまりの間に絵を描いて私たちの呼びかけに応えてくれました。3 才から 17 才までの子ども達が描いた絵とメッセージ、一枚一枚足を止めながら見られる方も多く、会場を訪れた一人ひとりが子ども達の思いを受け取られたのではないかと思います。

ロケット弾、爆弾、戦車、銃、破壊された家、立ちつくす人、別れ、涙など戦争の現実が描かれる一方で、鳩、ハート、地球、戦争前の穏やかな情景など平和への願いも描かれています。また、ウクライナを象徴する黄と青も印象的です。言葉では表しきれない思いが、絵に込められているように感じます。また、絵には表題やメッセージも添えられていて、絵とともに言葉も強く訴えかけてきます。報道では分からない戦時下の子ども達の内面が、絵を通して垣間見えるような気がします。絵画展は、子ども達の言葉にできない心の思い、それを心で受け止めることのできる貴重な機会なのではないでしょうか。

絵画展は、今回をスタートとして、今後もいろいろな所で開催できたらと考えています。すでに、12月に伊那で、来年9月に名古屋で開くことが決まっています。一人でも多くの方々に、ウクライナの子ども達の絵とメッセージをご覧いただいて、ウクライナの子ども達に「絵を観たよ」「メッセージを読んだよ」という声を届けられたらと思います。「ウクライナの空が晴れて平和であって欲しい」「ウクライナを助けてください」子ども達は訴えかけています。今後も、絵画展へのご協力をよろしくお願いします。

親愛なる子供たち、ご両親、先生たち、そして私たちの日本の友人の皆さん！

私たちは誇りを持って、困難な条件の下、短期間で子供たちが創り出した作品をお届けします。2 年目に入った戦争は、幸せな子供時代と喜びを奪い去りました。多くの子供たちは、両親がウクライナ侵略の戦いで命を落としたため、孤児となりました。空襲警報が鳴り響く時、子供たちは防空壕に改造された地下室に降りていき、そこで学校の授業を続けます。夜間に何度もキーウが爆撃される時、子供たちは親と一緒に防空壕に駆けて行かなければなりません。自宅の廊下やバスルームに身を隠す子もいます。その時、子供たちは爆発音や、撃ち落されたミサイルその他の殺傷兵器の発する閃光を恐れています。でも朝になると、いつものように皆登校するのです。それが今、ウクライナの現実の生活です。でも私たちはくじけません。私たちを打ち負かすことはできません。私たちは強い国民ですから。すべてのウクライナ人が、子供も大人も、戦争の終わりを夢見て、自分を守ってくれる兵士たちを支援しています。私たちの勇敢な軍人たちは、子供たちと国の未来のために命を捧げています。私たちは一つの大きな家族になって、勝利への道を切り開いています！

私たちは明るい平和な未来を願っています！

私たちはまもなく勝利の陽が輝くことを信じています！

市民団体「未来」

ワールドコラボフェスタについて

皆さんこんにちは！インターン生の久保田蒼です。

今年もワールドコラボフェスタがオアシス 21 で開催されました！多くの国際支援団体が各ブースで活気よく活動する中、我々チェルノブイリ救援・中部も参加させて頂きました。午前、午後ととてもありがたいことに我々のブースは大盛況であり、スタッフ一同座ることさえままならない状況でした（笑）。老若男女問わず、高校生や大学生ら学生、たまたま栄にいた人など、新たに国際支援に興味を持ってもらいました。そして、我々のブースでは毎年恒例であるクリスマスカードキャンペーンのための展示・活動をさせて頂きました。学生が団体で訪れてくれたり、親子連れの人たちやウクライナのことを心配して訪れてくれた人だったり、様々な人がクリスマスカードを書いてくれました。関心を持ってくれた皆さんはどの方々もウクライナの報道やニュースを通して、心配をしてくれる方、何かしたいという方が多かったです。

また、ウクライナの子ども達の絵画展の PR もしました！ちょうどワールドコラボフェスタの一週間後ということで興味を持ってくれる人もいました。

終わりの頃には吊り下げていたクリスマスカードがびっしりと埋まっていました！その数なんと 125 枚！！スタッフとして身を粉にして働いてくれた皆さん、そしてクリスマスカードを書いてくれた参加者の皆さん、大変ありがとうございました！

“放射能汚染水放流を中止させる日韓徒歩行進”に参加して

金　広美（キム・クァンミ）

1600kmに及ぶこの日韓徒歩行進は、今年の6月18日ソウルを出発し、釜山、下関を経て9月11日に東京の国会議事堂に到着しました。その行進団の中心におられたのが韓国の李元栄（イ・ウォニョン）さんです。<u>専門は都市工学で、最近まで韓国の大学の教壇に立たれていました。</u>

李さんはメディアで、日本政府が福島第一原発汚染水の海洋投棄を強行しようとしているのを知り、海洋投棄を止めるために徒歩行進を計画したと言います。86日間の記録は、李さんのブログ’行進日誌’(https://cafe.daum.net/earthlifesilkroad)で詳細に紹介されているので、是非読んでみて下さい。そこでは李さんと同じ思いをもった市民たちが、行く先々で行進に加わり、「放射能汚染水海に捨てるな!」「汚染水は陸地に保管しろ!」を訴えながら一緒に歩き始める様子が語られています。しかし時に人里離れた郊外をたった一人、猛暑の中、雨の中を歩き続ける李さんの姿があります。そうした李さんの行動は、声を上げ、行動する勇気を私たちに示してくれました。

私は、わずかな行程を一緒に歩いたに過ぎませんが、李さんと行動を共にしながら繰り返し聞こえて来る李さんのメッセージがありました。それは日本の私たちが決して避けては通れない、そして避けてはいけない問題です。そのメッセージを紹介したいと思います。

一つは福島第一原発の放射能汚染水投棄は日本一国の問題ではなく、海の生態系、地球村に住むあらゆる生命体を故意に破壊する行為であること。故に今の時代を生きる私達だけの問題ではなく、子々孫々続いていく負の問題であるということです。それを一国の一首相が嘘と欺瞞に満ちた方法で勝手に決めてしまう悪質さ、傲慢さに対し、怒りを込めます。

二つ目は、民主主義国家を名乗る日本が国民を無視し、その意思も問わず、この問題を政府が勝手に決めてしまう独裁的な社会とそれを良しとする日本国民に警告します。

「しっかりと聞いて下さい!　日本政府が嘘をつき国民を騙しているのに、国民はそれには目を向けずなぜ沈黙しているのですか!　この問題は日本政府の問題ではなく日本国民の問題です!　今、日本国民が問われています! 沈黙することによって国民の責任を放棄しているのです!　これは地球村全体に対する責任放棄でもあります!」これは、浜松駅前での李さんの演説です。

8月24日は悲しい日になりました。李さんら行進団が歩く中、日本政府は福島原発の放射能汚染水海洋投棄を始めました。三つ目のメッセージになります。「海洋投棄が始まっても市民の力でそれを止めればいいことです!」

日本政府はこの先も放射能汚染水を数十年にかけて海に捨てようと企てています。それに反対する日本の市民たちが、声を大にし、全国の市民たちと行動を共にして仲間を増やしていけば、必ず放射能汚染水海洋投棄を止められる、止めるという強い意志が求められます。

李さんは日韓徒歩行進を進めながら、各地で一緒に歩いた同志から日本政府に向けてのメッセージを書簡文集に書いてもらっていました。それは〈USB〉に収められて行進の最終日である9月11日に〈汚染水放出中止を求める陳情書〉と〈韓国市民団体の汚染水放出中止を求める声明文〉とともに衆議院議長(直接渡せず代理人)に伝達しました。

<u>2回目の放射能汚染水海洋投棄も決行されました。世の中には余りにも多くの不義が蔓延しています。その一つとして一人で変えられるものはありません。</u>今回、福島をはじめ、各地に散らばった脱原発運動が線で繋がりました。細い線ですが今後の連帯で太い線に育てることも可能です。まだ顔は見えませんが、李さんを通して韓国の脱原発運動を知る機会も得ました。放射能汚染水中止を求める日韓徒歩行進はこれからも続いて行きます。

4つの新たな支援

慈善基金「チョルノブィリの人質たち」理事　イェウヘーニヤ・ドンチェヴァ

「チョルノブイリの人質たち」基金は 1989 年に発足しました。当時、汚染地域の人々の問題がジトーミル州のジャーナリストたちを動かし、それが人々が団結して互いに助け合うきっかけとなったのです。やがてそこに、私たちの友人でありパートナーである「チェルノブイリ救援・中部」の方々が加わりました。でも今日のお話は、戦時の支援プロジェクトについてのものです。私の国が、すでに 1 年と 7 ヶ月、ロシアによる侵略の対象となっているからです。

全面侵略の開始後、私たちは、特別なケアを必要とする人たちと困難な生活条件に置かれた人たちを中心に、ジトーミル州の住民への支援を続けるという決定をしました。チョルノブィリ原発事故の事故処理作業者たちのことも忘れはしませんでした。彼らとのコンタクトは継続しており、私たちは彼らの必要とするものすべて、特に戦争開始後の数ヶ月、緊急に必要だったものについて聞いていたからです。しかし私たちが慈善活動の優先的対象としたのは、他国の同年代の子どもたちとは異なり、平和な生活における多くの可能性を奪われてしまった子どもたちでした。私たちは彼らの子ども時代に「彩りを添え」、それをよりよいものに変えていくことができます。そして戦時の私たちの活動の第 4 の方向は、私たちの友人である消防士たち、レスキュー隊員たちでした。彼らはミサイルによる爆撃の後に瓦礫を撤去したり、人々を救助したり、戦地での地雷撤去を行ったりして、改めて自らが英雄であることを証明したのです。

クワッドコプター

夏たけなわの頃、私たちはジトーミル州非常事態局局長のイーホル・ニキチュクから、業務のために緊急で必要なクワッドコプター入手についての依頼を受けました。捜索・救助作業、危険物の有無の点検、高温下で破壊された建築物の点検、煙の立ち込める中での被災者の捜索――これは、今日レスキュー隊員の業務において極めて必要とされているクワッドコプターが果たす機能の一部にすぎません。私たちはこの依頼を名古屋のパートナーに伝え、そして 9 月にはすでに購入されたクワッドコプターDJI Mavic 3 Thermal(167,000 フリヴニャ)を手渡すことができました。

消防士たちとドンチェヴァさん（中央）

日本の友人たちとの共同作業において常に重要なのは、素早い対応と、明確な目的を持った支援金の使用であり、消防士たち・レスキュー隊員たちの感謝の言葉は、すでに遠い日本に届けられています。

長年にわたって続いている、チョルノブィリ原発事故の汚染地域の第 2 ゾーンに属するナロジチの住民の支援プロジェクト実施にあたって、私たちはナロジチ町「お陽さま」幼稚園の子どもたちの安全に注意を向けました。今日、ここには 1 歳半から 7 歳までの子どもたち 80 人が通っています。残念なことに、飲用水の検査結果は、塩化物、硫酸塩、鉄の値が規準の数倍になっていることを示しました。そのため私たちは、ナロジチ村落地域戦時行政長オレーフ・ヤルモリュクと幼稚園長アリーナ・サフローノヴァの申請書を、自分

お陽さま幼稚園の浄水システム装置

たちの提案とともに「救援・中部」に送りました。その後、依頼を受けた業者が、複合浄水システムの設置を伴う水道改修工事の 14 万フリヴニャの見積りを作成しました。そして 8 月、幼稚園の夏の改修が終わって子どもたちの受け入れが始まる前に工事は終了し、今、子どもたちは濾過されたきれいな水を飲むことができます。

きれいな水の問題は、ナロジチ自治体にとって長い間焦眉の問題でした。そこで、私たちは幼稚園に次いでナロジチ町の小中高一貫学校と病院の水質検査を行いました。学校については、すでに水の問題が取り上げられ、浄水システムはかなり以前に設置されていました。一方、病院では同じ問題が残っていました。この病院に対する支援のプロジェクトは、「救援・中部」によって数十年続けて取り組まれています。以前、私たちは主に医療機器、医薬品、粉ミルクを購入していました。最近では昨年、厨房の電気コンロ購入の支援をしました。浄水システム支援の申請書をマリヤ・パシェク院長が作成し、費用の一部は地元の戦時行政が提供しました。現在、工事はまだ進行中ですが、200,900 フリヴニャのプロジェクトは 10 月には完了し、その時入院患者たちはきれいな水を使えるようになるでしょう。

爆撃で破壊された橋

ナロジチ自治体では、ロシアの侵略によって、8 つの村(スターラ・ラドチャ、ノーヴァ・ラドチャ、ラドチャ、トゥイチキウ、フレズリャ、ダヴィドクィ、ロウバ、ヴィリホヴァ)が占領されました。また、2022 年 3 月、数多くの爆撃の結果、5 つの橋が破壊されました。これらが不可欠のインフラであり、重要な社会的・エコロジー的・経済的な意味を持つものであることはいうまでもありません。これらの橋は、村々を自治体の中心地であるナロジチ町、地区の中心地コロステン、州の中心地ジトーミルとつなぐものです。2022 年 4 月初め、上記の村々は解放され、住民たちは自宅に戻りましたが、交通は遮断されてしまいました。このような状況下、社会保障や医療、レスキュー作業(火災発生時)の提供に困難が生じ、経済的問題(破壊された村々への建築資材や商店への食品輸送)が起こっています。人々は自治体から切り離されてしまいました。すべての建設作業は軍人たちが行っていますが、追加の建築資材、特にセメントの入手が緊急に必要になりました。「救援・中部」運営委員会はこの件を検討し、すでに 9 月、私たちの基金の口座に 496,000 フリヴニャが送金され、ナロジチ自治体の 5 つの橋の建設工事に用いられることとなりました。

橋の再建工事の作業風景

このように私たちは仕事をし、問題について相談し、プロジェクトの成功に喜び合っています。そして重要なのは、人々を助けているということです。

「暗い時代に、高潔な人の姿がはっきりと見えてくる」と、ドイツの作家エーリヒ・マリア・レマルクは書きました。ウクライナにとって困難なこの時期、遠い日本の友人たちは、またも私たちと共にいてくれたのです。私たちはそのことに本当に感謝しています。

キーウを逃れて　　イリーナ・ペトリチェンコ

国連が定めた「世界難民の日」があるのを皆さんご存知でしょうか。

毎年6月20日ですが、私も数年前までは難民なんて遠い第三国のことだと思い、あまり気にしませんでした。しかし、戦争で自国を離れてから簡単に終止符を打てなくなりました。そこで今年はミャンマー出身の同僚に誘われて、日本ミャンマー合同作映画の上映会*1に行きました。不思議なことに、開始前の挨拶には在日ミャンマー人の苦労を際だたせるためか、日本の対ウクライナ政策やウクライナ人を非難する人がいました。「ウクライナ人には日本のビザが当日発行」だの「うちのシェルターにいたウクライナの人たちが公営住宅をもらって早く出て行ってしまった」だの、悔しくて泣きたくなりましたが、日本で難民申請をして就労不可の在留資格になってしまう人達と比べれば、確かにウクライナ人が有利に見えるかもしれません。法的に働けますし、私とかが住むのも都営住宅。ですが、難民認定率の低さで有名な日本には、ウクライナ避難者が本当に多いのでしょうか。

出入国在留管理庁によりますと、2023年10月11日現在、ウクライナ避難者受入開始の2022年3月2日以降の合計が2523人*2、そのうち入国時に身元保証人のいない避難民入国者数が294人*2（つまり、日本政府直接受入れ、全体の1割強）。一方、現在の在留者数が2088人*2なので、約5人に1人がすでに日本を出国していることが分かります。

もう少し範囲を広げて見てみましょう。OECD諸国のウクライナ避難者受入れ状況を比較した場合、日本は何位になると思いますか（自国民1000人に対する人数、2022年9月中旬*3）。

Estonia 41.1	Germany 12.1	Israel 5.9	Iceland 4	United Kingdom 1.9
Czechia 41.1	Ireland 9.3	Norway 4.9	Slovenia 3.6	Greece 1.8
Poland 36.1	Austria 9.1	Portugal 4.8	Hungary 3	Turkey 1.7
Lithuania 23.2	Switzerland 7	Belgium 4.8	Spain 3	France 1.5
Latvia 20.2	Finland 7	Sweden 4.5	Italy 2.7	United States 0.4
Slovakia 17.2	Denmark 5.9	Netherlands 4.4	Canada 2.2	Australia 0.2
				Japan 0

答えは、31国中31位、つまり、日本国民1000人に対してウクライナ避難者0人以下が受け入れられているのです。ちなみに、1位となったエストニアやチェコは、ウクライナとの隣国ではなく性格上、移民国でもありません。それに、エストニア語がインド・ヨーロッパ語族の言語ではないので、ウクライナ人が理解するには日本語学習と同等の努力が必要です。避難に空路を要するアイルランドやイスラエル、アイスランドなどもウクライナ避難者をかなり受け入れています。

日本では外国出身者がどうして警戒されるのでしょうか。筑波大学の明石純一先生がこう説明しています。「日本に暮らす外国人の年齢分布を図で見ると、若い人が多くきれいなピラミッド型をしています。一方、少子高齢化社会である日本は寸胴型の図になります。外国人と交流が生じやすい、よって抵抗感が少ない若い世代は人口が少なく、外国人との交流経験に乏しい人たちが日本の人口のボリュームゾーンであるという構造は多文化共生へのブレーキになり得る（…）多文化共生は多文化を『強制』することではないんです。ただ、人を見た目で差別しないとか、外国ルーツに偏見を持たないとか、ごく普通のことを守れば良いもの（…）外国出身者が増える現代において私たち一人一人が日々を健やかに暮らす上では、『国民』と『外国人』といった分類や区別を意識するよりも、『同じ社会の構成員』という認識を持つのが自然なのではないでしょうか」*4と。

皆さんは、いかがお考えですか。　　（次号へ続く）

※1．https://www.aoyama.ac.jp/faculty107/2023/event_20230526_01（2023年10月16日閲覧）。

※2．https://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/01_00234.html（2023年10月16日閲覧）。

※3．https://www.statista.com/statistics/1342702/ukrainian-refugees-per-thousand-inhabitants-by-country/（2023年10月16日閲覧）。

※4．https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2022/79066（2023年10月16日閲覧）。

連載 148

ウクライナ戦争の今

―――一日も早く停戦を―――

2022 年 2 月 24 日にロシアがウクライナに侵攻を開始してから 1 年 8 か月が過ぎた。パレスチナとイスラエルの戦争が始まり、いささか影が薄くなったウクライナの戦争だが、現在も毎日激しい戦闘が続いている。東部ハリコフ州と南部ヘルソン州とザポロジェ州では連日ウクライナ軍とロシア軍の激しい戦闘が続いており、多数の住民や戦闘員の犠牲者が出ている。パレスチナの戦争も含め、一日も早く戦争を終わらせなければ。

戦争の犠牲者

戦争開始から現在まで、戦闘員の犠牲者数はウクライナ側が死者 7 万人、負傷者が 18 万人、ロシア側死者は 12 万人、負傷者は 18 万人に上る（10 月 18 日、ロイター）。市民の犠牲者数はウクライナ側死者 9177 人、負傷者が 15993 人（7 月 10 日 NHK）という。ロシア側市民の犠牲者数は不明である。また、ウクライナの国外避難民はポーランド、ドイツ、ロシアを含めて 807 万人以上(2 月 23 日、国連難民高等弁務官)。ウクライナは勿論、ロシアにとっても第二次世界大戦以降最悪の事態である。

戦争開始当初、ロシアのプーチン大統領は数週間でウクライナの首都キーウを攻略し、ウクライナをロシアの管轄下に置けると考えていた。しかしその思惑は見事に外れ、1 年 8 ヵ月経った今も勝利の見通しはおろか、東部・南部の戦闘地域では劣勢に立つ現状である。

過去の歴史から明らかなように、戦争は一旦始めるとどちらかが敗戦を認めるまで終わらない。本来なら国連が戦争終結の手立てを取るはずだがウクライナを支援するアメリカと当事者のロシアは共に国連常任理事国であり対処の仕様がない。こうした状況が何時まで続くか、現状では分からない。来年 3 月 17 日に行われる予定のロシア大統領選挙で現職プーチンの立候補は確実で、通算 5 戦目の勝利を目指している。最近 9 月 8 日から 10 日にかけて行われたロシアの統一地方選挙ではプーチン支持の現職知事や市長が圧勝したと伝えられている（9 月 11 日 NHK)。戦争は当分続くと考えざるを得ない。このままロシアの劣勢が続けば選挙を控えたプーチンは核兵器の使用も辞さない、と言われている。

国際政治の動きに注目

ヨーロッパを始めアメリカ国内でも「ウクライナ疲れ」と言われる世論の変化が起きている。これまでのウクライナ支援で国内経済の停滞やエネルギー危機、食糧危機などがその後押しをしている。そうした状況下で発生したパレスチナとイスラエルの紛争である。世界は今、新たな戦争への道を選ぶか否かの選択を迫られている。東西の権力者達は戦争危機を煽り、軍需産業で経済復興を目指している。日本の岸田政権もその只中にある。台湾有事を煽り、攻撃抑止力と称して軍事費を増やしている。国民生活を犠牲にして軍事力強化を図る現状は「新たな戦前」とも呼ばれる。

ウクライナの子どもたちの絵を見て

10 月 21 日、22 日に名古屋 YWCA で「戦時下のウクライナの子ども達の絵画展」を行った。これまで支援してきたウクライナのジトーミル州と首都キーウの子どもたちから送られてきた合計 112 枚の絵画が展示された。戦争で破壊された自宅や空襲警報の中での暮らし、戦地に向かう父親に「きっと帰ってきてね」と別れを告げる姿など、心のありようがそのまま絵になっている。戦争を煽る権力者達は今の自分の立場を守る為だが、子ども達にとって戦争は未来を失う事でしかない。一日も早い終戦の為に私達は今何をすべきか。

（2023 年 10 月 25 日　河田）

【寄付・会員状況のお知らせ】

◆8 月　寄付／会費　678,600 円
◆9 月　寄付／会費　293,220 円
◆2023 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
1,805,770 円（9 月末）

◆ウクライナ救援基金　23,580,261 円
（2022/3/7～2023/9/30）

◆会員数　178 名
◆ポレーシェ読者数　666 名

～心温まるご支援をありがとうございました～

【寄付のお願い】

◆一般寄付
三菱UFJ 銀行　高畑支店　普通　1682863
◆ウクライナ救援基金
三菱UFJ 銀行　名古屋営業部　普通 6949211
◆郵便振替　00880-7-108610
〈口座名義〉
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部

＊クレジットカードでも受け付けております
（ページ下の QR コードから寄付ページへアクセス！）

※領収書が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。
ご了承のほどお願いいたします。

南相馬〈みんなの食堂・ゆるっと〉たより

チェルノブイリ救援・中部のみなさま、いつも「みんなの食堂・ゆるっと」に対する多大なるご支援ありがとうございます。

「みんなの食堂・ゆるっと」は市内８つの社会福祉法人が連絡会を立ち上げ、地域貢献事業として、令和元年７月よりひとり親世帯や生活困窮者を対象に開始いたしました。最初は、ボランティアの方々に調理をしていただき、みんなで楽しく食事をしておりましたが、残念ながら新型コロナウィルスが蔓延する時期となってしまいました。そこで、コロナ禍でもできることを考え、対象者へお弁当をお渡しすることにいたしました。ひとり親世帯などは、少しでも顔をあわせることができるように、お弁当を取りに来ていただき、その際にミニコンサートなどイベントを同時開催しております。高齢者や障がい者の方は、取りに来ることが難しい方が多いため、ボランティアがご自宅までお届けして健康状態などを確認しています。

チェルノブイリ救援・中部のみなさまからのご支援金は、5kg のお米を購入する費用にさせていただき、チェルノブイリ救援・中部のシールを貼ってお渡しさせていただいております。食べ盛りのお子様のいらっしゃる世帯からは、「本当に助かります」とのお声をいただいております。また、5kg のお米をお母さんの代わりに持ってあげる小さなお子様の誇らしげな様子などがほほえましく印象的でした。

最後になりますが、南相馬市社会福祉法人連絡会一同および「みんなの食堂・ゆるっと」利用者に変わり、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

～南相馬市社会福祉法人連絡会　事務局　青木より～

発行　特定非営利活動法人　チェルノブイリ救援・中部
〒460-0012　名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館 5B
TEL＆FAX　052－228-6813（月･水･金　10:00 ～ 15:00）
E-mail　chqchubu@muc.biglobe.ne.jp　URL　http://www.chernobyl-chubu-jp.org
印刷　エープリント

http://www.chernobyl-chubu-jp.org/kessai.html